

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい—共感力、想像力を高めよう—

学院長 嶋 田 順 好

ジョンズ・ホプキンス大学が発表する統計によれば、世界の感染者数は間もなく1億人に至り、死者も210万人に達しようとしています(1月22日)。もちろん、先進国はもとより、多くの途上国では、貧しさ故に医療機関にかかることもなく放置され、行き倒れのようにして息絶える方々も少なからずいることを思えば、この統計の数値の正確さにも一定の留保が求められるでしょう。実際にはこの数値よりもはるかに多くのコロナ禍による感染者、死者がいるであろうことは否めません。

間もなく東日本大震災が生起してから10年の節目を迎えようとしています。大津波とそれに連動して生起したレベル7と言える歴史上最悪の原発事故に遭遇した時には、率直にもはやこれ以上の大きな災害は起りえないのではないかとの思いにさえ捉えられたことでした。もちろん、災害の軽重や大小を単純に疫学的に表現することには危うさが伴います。被災された方々の現実、それぞれに個別的であり、具体的であり、その大いなる痛みを伴う過酷で悲惨な経験を単純に抽象化して数値の多寡で表すことはできないからです。

そのことを十分に弁えつつも、やはり今回の新型コロナウイルス感染症がもたらした災害は、政治的にも、経済的にも、社会的にも、文化的にも、これまでのあらゆる災害を超えた異次元の災害と言わざるを得ません。というのも、このコロナ禍は中国武漢での封じ込めに失敗し、あっという間にパンデミック化し、世界中に感染が広がることにより、77億人と言われる地球上のすべての人々が例外なく巻き込まれる災害になってしまったからです。その意味においてこれまでの長い人類の歴史を貫いて、まぎれもなく最大の災害であることは否定できない事実ではないでしょうか。

当初は杳としてつかめなかった新型コロナウイルス感染症でしたが、日本における最初の感染者が出てから約1年が経過する中で、その特徴も大分見えてきたところがあります。なるほどと思われたことは、エボラ・ウイルスのように致死率が高いと、感染者が死亡することによってウイルスも死滅し、感染が広がりにくくなるという事実です。しかし、今回の新型コロナは致死率もそれほど高くなく、無症状感染者が大勢いることにより、かえって感染拡大がすごい勢いで進展することになるというのです。それとともに重症化する人の割合は、圧倒的に高齢者や基礎疾患を抱えている方々に偏っており、若い世代の多くは感染しても軽症か、無症状ですんでしまいます。にもかかわらず、無症状ということで油断していると、時に免疫の暴走としてのサイトカインストームが発症し、若い人でも短時間で死に至ることさえ起こるのです。その限りまことに油断のならない病であるに違いありません。

あらためてその正体を知らされれば知らされるほど、生命体ではないにもかかわらず、このウイルスが、稀代の詐欺師のように、いかにも抜け目なく、いかにもしたたか、いかにも手ごわい相手と思わずにはられません。静かに姿を隠してひたひたと押し寄せてきます。次々と変異しながら感染力を強めていきます。まるで真綿で首を絞めるような精神的圧迫感を与え続けます。しかも感染後の重症度が年齢で異なるため、どうしても若者たちの中には「コロナ、なにをするものぞ」との慢心や油断ができ、警戒心が薄れます。つまり皆が皆、新しい生活様式に即して一丸となり、ウイルスを一網打尽にする共同行動をとることが難しくなるのです。実に人間心理の弱点を知悉し、その間隙を突く狡猾ぶりではありませんか。

確かなことは、今、私たちは、このウイルスから「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」(ローマ12:15)との共感力、他者を慮る想像力を試されているということではないでしょうか。「神を畏れ、隣人を愛する」ことをスクール・モットーとする宮城学院に連なる者たちは、新しい生活様式を倦まず弛まず貫くと共に、ウイルスの感染力にまさる共感力、想像力を高め、その力を周囲に広げつつ、このウイルスからの挑戦を見事にやりすごし、このウイルスが忍び寄ることを断念せざるを得なくなるような学び舎であり続けたいと願っています。